

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和6年1月26日（金）

### 2 確認箇所

雑固体廃棄物焼却設備（B系）

### 3 確認項目

雑固体廃棄物焼却設備（B系）排ガス分析装置酸素濃度計の指示不良に伴う焼却設備の停止に関する対応状況

### 4 確認結果の概要

令和5年11月27日、運転中の雑固体廃棄物焼却設備（B系）において、排ガス分析装置（B系）の酸素濃度計の指示不良が確認され、正常な酸素濃度の測定ができなくなったことから、焼却設備を停止する事象が発生した。原因調査及び対策が実施されていることから、東京電力へ聴き取り調査の上、現地確認を行った。

◆東京電力の説明の概要は以下のとおり。

#### ○推定原因

酸素濃度等を測定した後の排ガスを、排ガス分析装置から排気筒に戻す経路（以下「排ガス戻りライン」という。）の配管内に結露が発生して閉塞したため、排ガスを正常に採取・排気できなくなったことが原因と推定される。

#### ○対策

・同年12月5日、排ガス戻りラインに溜まっていた水を抜き、試運転を行い排ガスの採取流量を確認した結果、正常値0.5L/minに復帰した。

#### ・運用面の対策

運転員によるパトロールにおいて、排ガスの採取流量（正常値0.5L/min）、排ガス戻りラインに水が溜まっていないことを確認する。（12月6日から開始）

#### ・設備面の対策

水が溜まっていた排ガス戻りラインに、ドレントラップ（水と排ガスを分離できる部品）と、内部状況を確認できるドレン配管を追設し、水を排出できる構成に改造する（令和6年6～7月頃を予定）。なお、同様の対策を排ガス分析装置（A系）でも実施する。

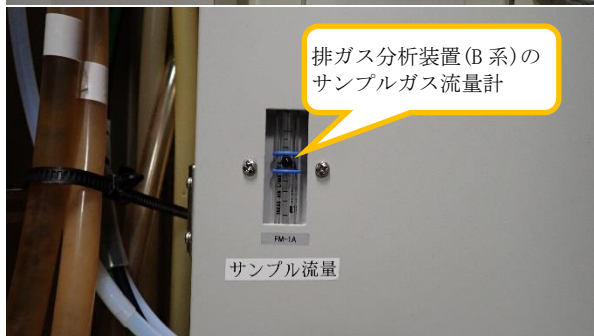
◆現地確認の状況は以下のとおり。

- ・昨日（25日）から雑固体廃棄物焼却設備（B系）が運転しており、排ガス採取流量は約0.5L/min、一酸化炭素（CO）濃度は0ppm、酸素濃度は12～13ppmを指示し、排ガス戻りラインに水は溜まっておらず、排ガス分析装置（B系）は正常に稼働していた。（写真1、2、3、4）



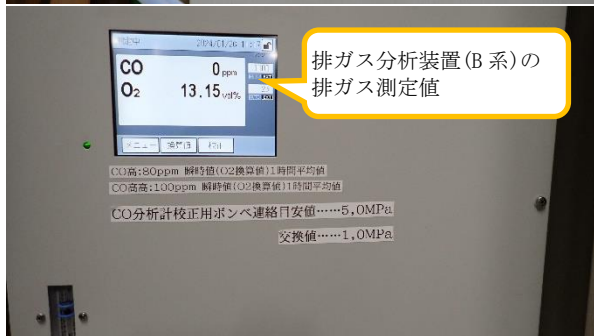
(写真1)

排ガス分析装置は、写真のラック内に収納されている。



(写真2)

排ガス分析装置 (B系) のサンプルガス流量計は、約0.5L/minで安定していた。



(写真3)

一酸化炭素（CO）濃度は0ppm、酸素濃度は12～13ppmを指示していた。



(写真4)

排ガス戻りラインに水は溜まっておらず、排ガス分析装置 (B系) は正常に稼働していた。

## 5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。